

令和3年度

大江町総合教育会議 会議録

期 日：令和3年12月16日

大江町教育委員会

- | | | | |
|---|----------|---------------------|-------|
| 1 | 招集年月日 | 令和3年11月22日 | |
| 2 | 招集の場所 | 大江町中央公民館 町民ホール | |
| 3 | 開会年月日 | 令和3年12月16日 午後3時 | |
| 4 | 出席委員 | 大江町長 | 松田清隆 |
| | | 大江町教育委員会委教育長 | 犬飼藤男 |
| | | 大江町教育委員会委員 | 山家貴代 |
| | | 大江町教育委員会委員 | 鴨田幸恵 |
| | | 大江町教育委員会委員 | 海野晋 |
| 5 | 会議に出席した者 | 大江町総務課 課長補佐 | 金山浩 |
| | | 大江町立左沢小学校校長 | 建部敦 |
| | | 大江町立大江中学校校長 | 庄司雅和 |
| | | 大江町立本郷東小学校校長 | 鈴木智香子 |
| | | 大江町立大江中学校教頭 | 渡邊基 |
| | | 大江町立左沢小学校教頭 | 田代拓 |
| | | 大江町立本郷東小学校教頭 | 西谷輝彦 |
| | | 大江町立左小・大中藤田の丘教頭 | 荒井かおる |
| | | 大江町教育委員会教育文化課長 | 西田正広 |
| | | 大江町教育委員会学校教育主幹 | 村山一彦 |
| | | 大江町教育委員会学校教育主査 | 高瀬こずえ |
| 6 | 協議事項 | (1) 今後の教育振興に向けて | |
| | | (2) 大江町教育プランの実現に向けて | |

◎開会

○西田教育文化課長

令和3年度大江町総合教育会議の開催を告げた。また、今回校長会、教頭会からも参加をいただいているが、教育振興に向けて各般のご意見をお聞きしたいことから、合同の会議としたことを告げた。会議の主旨を議事録としてまとめ、町ホームページにより公表していくことを告げた。

◎あいさつ及び講話

○松田町長

会議に出席いただいたことに謝辞を述べ、その後、今後の教育振興に向けて講話をおこなった。

○犬飼教育長

会議に出席いただいたことに謝辞を述べ、その後、大江町教育プラン（第3次教育振興計画）の実現に向けて講話をおこなった。

◎情報・意見交換

○西田教育文化課長

次第3 意見交換をおこなうこととし、町長が座長となり会議を進めることを述べた。

意見交換

- 1、今後の教育振興に向けて
- 2、大江町教育プランの実現に向けて

○松田町長 昨年に引き続き新型コロナウイルスの感染拡大があり、今年も例年とは違う教育活動となりましたが、ぜひこの場でご意見を出していただき、今後の活動に活かしていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

「教育振興に向けて」と「教育プランの実現に向けて」という議題が用意されていますが、切り分けて話すのが難しいということもありますので、普段から大江町の教育について感じていることや、先生方が常日頃考えている教育の在り方などについてご意見やご感想などをいただければと思います。

これから少子化が進む中での学校経営については、私たちだけでなく、みんなで考えていかなければなりません。大江町型教育ともいえる今後の義務教育について、みんなが同じ方向を向いて話し合いが進んでいけばいいのかなと思っています。

それではこれから、みなさんから「今後の教育振興に向けて」および「大江町教育プランの実現に向けて」という項目についてご意見をうかがいたいと思います。まずは一番若い海野委員の意見をお聞かせください。

○海野委員 私自身、大江中学校を卒業して高校へ行き、その後一度東京に出てから大江町に戻ってきました。なぜ帰ってきたかという、東京では『集団の中のひとり』でしかなかったのですが、大江町には私のことを幼いころから知っている近所の人や、私が実家のカイノ電器を継ぐことを待っている人もたくさんいました。そういう人たちのために働きたい、役に立ちたいという思いを非常に強く持ちました。

大江町は住み心地がとてもいいと言われています。それは人と人との繋がりがあり、その中で暮らすことの満足度が高いからだと思っております。人と人との結び付きが強く、それは教育にも表れています。

英語教育に代表されるように、大江町は教育熱心な町であると、よく聞こえてきます。ですが私は基本的には、教科書をきちんと読める力のある子どもは学力が高いと考えています。教科書をきちんと読める子どもに育てるには、学校自体をもっと教育していく必要があると考えます。それには子どもだけを対象とするのではなく、先生たちも巻き込んで進める必要があるのではないのでしょうか。

最近の新入社員は、設計図や説明書が読めない人が多い。最近の子どもはプラモデルも作ったことがないので、説明書も読んだことのない人が多いのです。だからエアコンの台すら組み立てられない。

最近私が読んだものに『AIパーサス教科書の読めない子どもたち』という本があります。これからのAI社会では、自分で発想し自分で行動することができないとダメだといいます。そういう人間を大江町では育てていくのだという教育を自信を持ってできれば、今以上に先進的な教育になるだろうし、もっともっとブラッシュアップされるものと思っています。

大江町の特徴のひとつである左沢高校までも連携し、国際的な教育を進められればいいなとも思っているところです。

○松田町長 今はスマホにしてもコンピュータにしても、説明書などを読まなくとも感覚的な操作でできるようになっています。取扱説明書は誰も見ないので、そういう若者も増えているのでしょうか。発想できる子どもを育てるのも私たちの責任だと思いました。

○鴨田委員 海野さんの意見が地元で生まれ育った方のお話でしたので、私からは他の地域から嫁に来たものの立場として話をさせていただきます。私は寒河江から大江町に来ましたが、人間関係の温度差があるなあと感じていました。大江町は人と人との結びつきが強く、お互いに助け合える人間関係を築くことができますし、その中で育つ子どもたちはそれを感じながら成長していくものと思います。

かつては子どももたくさんいて活気がありましたが、今は人が減ってしまい若者も少なくなりました。でも元気な若者はたくさんいるので、その人たちをうまく取り込んでいかななくてはならないと思います。

また英語力については大江町の特徴ですが、その中でより人間味があり温かさの感じられる教育にしていっていただきたいと思います。

○松田町長 より人間味があり温かさの感じられる教育についてご意見をいただき、また先ほどはもっと自分で発想する力を身に付ける子どもを育成すべきだというご意見もいただきましたが、教育の方向性は間違っていないと感じましたので、今おこなっている教育に少し工夫を加えるだけで大きく変わるのではないのでしょうか。

○鴨田委員 今大江町のSNSで素晴らしい情報が発信されています。毎回学校の給食が紹介されたり、子どもたちが頑張っている様子も見られたりします。遠くに住んでいる私の娘もそれを見て、「大江町すごいね」と郷愁を感じているようです。これはすごく魅力的なことだと思います。これを見て「自分も明日からまたがんばろう」と感じられるようです。

○松田町長 SNSの情報発信は職員のアイディアから生まれていて、日常生活の中から発信できる題材を探しながら進めています。しかし心配しているのは、学校の情報をすべての人に流すのは、学校生活に興味や関係が無い人にとってはどうなのかなということなのですが、今の話をお聞きして様々な感じ方があるのだなと非常にうれしく思いました。ありがとうございました。

他の地域からいらっしゃってるという点では、大江中学校の庄司校長先生も今年山形市からおいでいただいているわけですが、大江町の町民性や人間性については、子どもたちも含めてどのような印象を持たれましたか。

○庄司校長

4月に赴任させていただきましたが、大江中学校の生徒たちは本当によく育っているなという印象を持っています。何がいいかというと、まずあいさつが素晴らしい。語尾の上がる明るいあいさつを笑顔でできる子どもたちが多いのです。

しかし8年前まではあいさつができないとして、課題とされていたようです。それを改善しようと「あいさつ宣言」や「小学校でのあいさつ運動」など様々な取り組みをしてきた結果、今は95%の生徒が「自分たちのあいさつはうまくできている」とアンケート調査に答えています。大江中の子どもたちは自分たちのあいさつを自慢できることとして捉え、考えています。だから地域に出ても受け入れられるし、これは犯罪抑止にもつながります。あいさつ運動はこれからも続けていくべきだと考えています。

またこれは子どもたちの人間性にも大きく影響しています。子どもたちの関係性も非常によく、共生教育を進める中で、子どもたちはみんな考えて、みんな伸びていくということを意識しています。置いてけぼりをつくらない。みんな協働する、という意識がよく育っていると感じます。

少子化の中ですが、小規模校のよさというものはあります。私は山形六中という大規模校から大江中にきましたので、大江中のひとりひとりに目が届く教育、地域の方々の協力が得られる教育、その中で先生方も一所懸命頑張っているという良さが本当によく分かります。そんな小規模校のいい環境の中で子どもたちは学んでいるのです。

しかし一方では、もちろん課題もあります。人に伝える力が不足していることや精神的な弱さ、そういったことの改善にいま先生方と一っしょに取り組んでいるところです。

○松田町長 ありがとうございます。特にあいさつについては、大江町では小学校から頑張って取り組んでいるものだと思います。コミュニケーションの基本はあいさつであり、これは社会人になっても変わることはありません。大人になってもためらわずに、明るくあいさつできるのは、根底のベースがしっかりしているからだと感じます。

これについて、小学校としてはいかがですか。

○建部校長 町長さんからは「町を自慢できる人間に育てほしい」というお話がありましたが、私も同感です。さらには外にPRすることも大事ですが、まずは自分たちが、そこに住んでいる人間が満足できなければ、PRすることもできないと考えています。

私自身も大江町の楯山や舟運文化、また青苧などのことを子どもたちと一緒に学ぶ中で、気が付くことがたくさんあります。これらの特徴的なことを子どものころから学びながら育つことが大事なんだなと感じています。

ですので町づくりに関しても、他所と比較したり対抗したりするのではなく、自分たちが満足する大江町になればいいなと思っています。

その意味で、いま大江中学校のあいさつについてのお話がありましたが、左沢小学校でも地区の方々が見守って声掛けをしていただく中で進めております。通学路に立ってあいさつしていただくことが子どもたちに大きな影響を与えており、今日のひと言が子どもたちの成長にも響くことを実感しているところです。

また少子化についてですが、子どもが少なくなれば多様な教育が難しくなりますので、その意味で地域の方から来ていただく教育などを大事にしていく必要があります。コミュニティースクールが発足してまだ1年目ですが、人が減る分さまざまな工夫を凝らしていかなければならないと感じています。

○松田町長 ありがとうございます。それでは引き続き鈴木校長先生お願いいたします。

○鈴木校長 あいさつが話題となっていますが、本郷東の子どもたちは校内でのあいさつがあまりよくできていないなと感じていました。ですので先日、中学校の素晴らしいあいさつを見習うため、中学校の生徒会の方にご協力いただき、校門の前であいさつ運動をしていただきました。その後、生徒会長の大森くんから朝会で、自分たちの取り組みなどについてお話をしてもらったのです。その話を聞く子どもの目が輝いていて、その日の子どもたちのあいさつがとても立派だったことに驚いたところです。やはり自分たちのお兄さんのような方からの話を聞くことは、子どもたちにとってすごい影響力があるのだと感じました。

冒頭に校内でのあいさつはよくないと申し上げたのですが、本郷東小の子どもたちは実は校外でのあいさつはすごくいいんです。特に横断歩道で停まってくれた車に対するお辞儀なども立派だと、これまで何度もご連絡いただきました。先日は学校に「いち町民より」というお手紙をいただき、そこには「運転手の目を見て深々とお辞儀をする姿に感動した」という内容が書かれていました。これは教員だけが教えているわけではなく、代々6年生が下級生に教え伝えていることなのです。さらには雨天時の傘についても、建物の中に入る時はきちんと水滴を払って、まとめてから入るんだよ、ということを上級生が1年生に教えていまし

た。本校の昇降口にはそれらの傘が見事に一列に並んでいます。上から下に教えていく文化が根付いているのですね。

また地域の方たちもとても協力的で、先日も3年生がりんごの皮むきの学習をしたときに5人の方がボランティアで来てくれました。その中のおひとりの方は、学校に子どもも孫もないのだけれど、子どもたちに手取り足取り教えてくれて、子どもたちもとても楽しんで学んでいました。地域の方の協力は本当にありがたいと感じています。

最後になりますが、今年の本郷東小は「みんなが自慢できる学校をみんなで作ろう」というのが合言葉になっています。先ほどの町長さんのお話とリンクするところもあるなど思いながら聞いておりましたが、本郷東小学校では今後もこういった子どもを育てていきたいと考えております。

○松田町長 同じような思いで教育活動を進めていただいていることに感謝申し上げます。

ただいまは、学校の先生方にお伺いして、このような教育を進めていますという話をお聞きしてきましたが、教育委員会として全体的な感想なりご意見なりを山家委員さんからいただきたいと思います。

○山家委員 ただいま先生方のお話をお伺いして、本当に愛情をいっぱい注いで子どもたちに接していて下さるのだなと感じました。今は学校現場でもコロナ対応が本当に大変な時期だとは思いますが、このことが不利に働くのではなく、これにより様々なことが精査され、またこれが転じてよい教育につながっているのではないかと感じました。通常、学校生活の中には様々な行事があり、外部とのつながりもあるわけですが、今回のコロナ禍で先生方と子どもたちとの絆がより深まっているのだと感じられた先生方のお話でした。

例えば修学旅行ひとつをとってみても、これまでは県外に当たり前のように行っていました。あらためて県内で実施することにより自分たちの身近な最上川などを見直すなど、地元の良さを感じられたのではないのでしょうか。そういう自分たちの生活に密着した場所を振り返り、確認する意味でも子どもたちはいい時間を持てたのではないかと思います。

こうした中において、全体的に教育の在り方というものを見つめ直し、コロナ禍で何ができるのかということが見えてきたのではないかと思います。

そんな中でも、AIであるとかGIGAスクール構想であるとか、いろんな新しいことが入ってきています。これらのことに取り組むのはもちろん大事なことなのですが、先生の研修の時間もたっぷり取っていただき、人材の育成をしっかりとしていかなないと、先生方が余裕のある気持ちをもって子どもたちに接することができなくなるのではないかと思います。

いずれにしても大変な時代ですので、先生方にはもっと人材育成に割く時間を取っていただいて、時代に合った教育ができるようにしてほしいと思います。大

江町の子どもたちを自信を持って世に送り出すためには、先生方がもっとゆとりをもって対応できるようにしなければならないと感じているところです。まして今は先生の産代を探すのも大変な時代です。先生方が安心して子どもを産めるような環境を整えることも大事だと思いますし、そういう社会にならなければなりません。今先生方はギリギリのところまで頑張ってもらっています。その部分に挺入れできるようになればいいと感じております。

最後になりますが、大江町の子どもたちには自慢できることがたくさんあって、先ほどから出ていますようにあいさつにしても、とても元気にしてくれます。そうすると大人も元気に返さなくてはなりません。子どもたちの素直な、自然なあいさつができるのも先生方が慈しんで育ててくださっているからなのだと、心から感謝申し上げます。

○松田町長 変わりゆく教育現場においては、町長がしっかり予算を付けてちゃんと先生方を育てなさいという、激励をいただいたような感じを受けました。GIGAスクールなどが進んでいるわけですが、本来はもっとしっかりと予算措置をして、コンピュータ等を使用する環境、また指導する体制を整えることも大事ですので、今後の検討課題だと思います。

また子どもたちが自慢できることや地元愛を育むことができるようになることの大きな要因のひとつに、私は友人関係があると思っています。例えば大学の休みに帰ってきた時に一緒に遊ぶ仲間がいるということは非常に大事で、町とのつながりを保つきっかけになりますので、ぜひ小中学校の生活を通していい友だちをたくさん作ってほしいと思います。

かつては部活動仲間にはものすごく強い絆がありました。今の時代はどうか分かりませんが、そういうつながりがあると、町に対する思いも大きくなるような気がします。どうかそういう関係を大事にしてほしいと思いました。

最近ではメンタル的に少し弱い子どもが増えているようにも感じます。一度就職はするのですが、とどまることができない若者も増えていると聞いております。それは個人の問題だけでなく、家庭や会社、社会の問題などが複雑に絡んでいるのだと思います。通常は多くの体験・経験を積ませることにより、喜怒哀楽をより多く感じながら成長し、人間関係を築く基礎となるわけですが、現代はそれがなかなかできていないと感じます。

○犬飼教育長 今町長がおっしゃったことは、学校でも同じことが言えます。若手の教員が、採用から3年目までで辞めるケースがものすごく増えていて、県の問題にもなっているのです。校長先生方にも若い教員をどう育てていくのかという大きな課題が突き付けられています。昔から「教育は人なり」とよく言いますが、特に近頃ICT教育や英語学習の小学校教科化などが導入されるようになってから先生方の自信喪失につながっている面もあり、とても大きな問題となっているようです。

先生は基本的には優秀ですから、できないのは自分のせいだと抱え込んでしま
う傾向もあります。そして落ち込んで立ち上がれなくなる方もいるということも
また事実なのです。

○松田町長 先生には優秀な方が多い中で、いったん躓いてしまうと立ち直れないケースが
出てきているのは承知しています。その先生の人生を考えると本当にもったいな
いと感じます。なにかいいアイデアはないでしょうか。

○海野委員 メンタルが弱いといわれるのは、個人のせいだけでなく、例えばSNSなどみ
ても一度失敗しただけで徹底的に叩かれ、立ち直れなくなる人が多いのもまた事
実なので、社会的な要因も大きいと思います。大人の社会ではセクハラやパワハ
ラが問題となっていますが、なぜ未だにそういうことが後を絶たないのかという
と、ひとりひとりを尊重する社会的な基盤のようなものが壊れかけているのでは
ないかと考えます。

現代は働く形も多様化していて、リモートワークなども普及してきましたが、
社会的な倫理観、道徳観ももっと大事にしていかないと、他人を尊重し、志も高
く持つことができないと思います。若い人たちがリセットできないような社会で
はダメだと感じています。

○犬飼教育長 学校に行くことができなくなった子どもはどの学校にもいるのですが、対応
については非常に難しく本当に心を痛めています。原因は学校、家庭、社会さま
ざま絡んでいきますのでなおのこと難しいと思います。学校に行かなくても生きて
いけるような社会のありかたも考えていかないと、子どもたちは潰されてしま
いますので、学校に戻ることも支援しながら、なおかつ社会の仕組みの在り方につ
いて変化させていくことも大事なのではないかと思います。

○松田町長 本日はさまざまなご意見をいただきましたが、最初に申し上げたとおり何かの
課題について結論を出すような会議ではないと思っています。私自身今日はとても
勉強になりましたので、今後につなげていくよう、学校現場は勿論ですが、教
育委員さん方の意見を今後も強く出していただいで、大江町の教育、子育てに結
び付けていきたいと考えています。

本日は誠にありがとうございました。

◎閉会

○西田教育文化課長 総合教育会議を終了することを告げた。

閉会 午後5時00分